

寸言

株式会社SUBARU
常務執行役員
航空宇宙カンパニープレジデント
戸塚 正一郎



コロナ禍における航空宇宙カンパニーの展望

株式会社SUBARU航空宇宙カンパニープレジデントの戸塚正一郎です。当カンパニーの現状と今後について述べさせていただきます。

昨冬来の新型コロナウイルス感染症は、深刻なダメージを世界中に与えながら二度目の冬を迎え、航空産業も未曾有の厳しい状況にあります。このような時こそ、皆が手を取り合い対処していくことが必要です。規模の小さい会社ほどインパクトが大きいと、多数のパートナー会社とこの危機を正しく共有し、一丸となって対処してきました。その中で経費や資産、スペースの無駄等を明らかにし、中長期的な視野に立ちゼロベースでの改善活動を推進する一方、将来に備えた老朽更新等の投資と布石は確実に打ち、強い体質に生まれ変わろうと積極的に取り組んでいます。活動を通じて得られた経験とノウハウは次世代人材と組織にしっかりと伝えていくことも大切にしています。

当社の防衛事業は、緊急事態宣言下でも継続が求められる事業にあたります。このような状況下においても、万全の感染防止策のもと稼働して参りました。一昨年2月に納入したUH-X試作機が技術実用試験の佳境にあり、また、UH-2量産が本格化し、全力で取り組んでいます。陸上自衛隊木更津駐屯地内にて整備中の米MV-22オスプレイは、整備品質面で高い評価を得ています。無人機分野では研究試作等を通じ、新たな運用等を検討しております。昨年末発足した次期戦闘機開発の設計チームにも参画し、オールジャパン体制の一翼を担う重要な存在として、しっかりと貢献していきます。

旅客機分野では、需要回復に時間がかかる見込みから事業構造のダウンサイジングを敢行しました。787中央翼を組み立てる愛知県半田工場はボーイング最終組立ラインに直結しており、昨春ボーイング米国工場の稼働停止の際は当社も一時稼働停止を即決しました。一方、767は堅調、737MAXは商業運航再開、777貨物型機が好調と、良いニュースも聞かれ、当社も生産対応中です。

民間ヘリコプター分野では、昨年11月に長野県消防防災ヘリコプターとしてベル412EPI式を納入しました。警察庁から発注頂いたSUBARU BELL 412EPXのうち1機は本年3月に納入予定です。

コロナ禍はビジネスのデジタル化に拍車をかけたとも言われております。SDGsへの貢献、CSRへの取り組みと共に、各企業の経営課題として一層強い対応が求められ、時代の大きな転換点を迎えています。カーボンニュートラルの流れは航空機にも及びつつあり、業界としての対応や大きな方向性を議論していく時期にあると思います。

この未曾有の危機は、日本の航空産業が時代の転換点を乗り越える機会と前向きに捉えています。どんなに社会が進歩しても人や物の移動は無くならず、より速く、遠く、多くという移動への根本欲求は、航空需要を必ず回復させるでしょう。世界がコロナ禍を克服した暁には大きく飛躍できると信じ、業界総力を挙げて取り組んでいきましょう。

今後とも皆様の一層のご指導、ご協力を宜しくお願い致します。